

『二つの門』 マタイの福音書7章13～27節 2018.11.25 召天者記念礼拝説教より

『わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。』

ヨハネの福音書10章9節

召天者を偲ぶ時…先に召された方々は、その天の故郷(ヘブル 11:16)で労苦から解かれ、神の慰めの中に憩う(黙示録 14:13、21:3-4)。神は、全ての人をそこへ招き、ずっと共にいたいと願い、私たちの決断を促される！

①狭き門と広き門…人生の選択(13 節)…人生は選択の連続！その判断基準は何？私たちの目の前に2つの門…「狭き門」は「いのちに至り」、「広き門」は「滅びに至る」(7:13-14)。多くの人は神の御心を問わず、従わず、自己判断で生きる。これが「広き門」(7:13)！聖書は、『見よ…いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい…あなたの神、主を愛し、御声に聞き従い、主にすぎるため(申命記 30:15-20)』と促す。神に聞き従う人生とは、具体的には何？イエスは言われた。『わたしは門です。だれでも、わたしを通してはいるなら救われます(ヨハネ 10:9)』と。イエス様を救い主として信じた時、全ての人に開かれた救いの門をくぐり、天国へと歩む！「狭き門」なので、誰もが背負う「罪」という大荷物が天国の門にひっかかって通れない。わがままな心のまま、平和な天国の住民にはなれない。「俺が・私」の『我』を捨てて、身を低くし、神の赦し(救い)を頂く時、いのちと祝福に至る！傲慢を神の前に悔い、人の前にも素直に謝り、永遠の祝福に与れるのなら、こんな幸いはない！イエス様は、哀れな、惨めな姿で十字架につけられ、私たち罪人の身代わりとなり、天国への道を開かれた！

②いのちの門をくぐり、天の故郷へ(14 節)…天の故郷は、死んでから行く所ではなく、今すでに『私たちの国籍は天にある(ピリピ 3:20)』と言う。島村亀鶴師が、4才の善樹君を病で失った時、「汝が心、天に向けよと吾子(あこ)召して、主イエスはわれを振り返り見る」と詠んだ。大切なわが子を失った悲しみの中で、島村先生は、「汝が心、天に向けよ」との神の声を聴いた！「いのちに至る門は小さく、その道を狭く、それを見出す者はまれ(14 節)」とあるが、救い主の誕生を知らせるクリスマスは世界中で知られ、罪の身代わりの十字架も世界中に掲げられる！

★この創り主、救い主、慰め主の前に身をかがめ、頭を低くしてその愛を知り、罪の赦しを頂き、人の前にも謙遜に感謝する者になりたい！天国に着く時私たちがすべきは、イエス様への御礼、神様へ愛への感謝のみ！